
第 1 章

平成22年の福島県経済の概況

第1章 平成22年の福島県経済の概況

◆ 総合判断

平成22年の福島県経済は、個人消費は総じて弱い状態が続いたが、生産活動は回復に向けた動きが続き、雇用情勢は低水準ながら改善の動きがみられるなど、厳しいながらも持ち直しの動きが続いた。

平成22年の日本経済は、新興国を中心とした海外経済の改善や各種緊急経済対策の効果等を背景に、前年に引き続く持ち直しの動きのなか始まった。生産活動における持ち直しの動きは雇用・労働環境へと波及し、有効求人倍率などに改善の動きがみられたが、失業率が依然として高水準を保つなど厳しい状況が続いた。

夏には猛暑効果などにより消費活動に持ち直しの動きがみられたが、秋になるとアジア経済の回復テンポの鈍化、猛暑効果の反動や、エコカー補助金制度終了の影響などにより、景気は足踏み状態となった。

その後、年末にかけて、世界経済の緩やかな回復を背景に、足踏み状態を脱する動きがみられた。(図1、図2)

平成22年の福島県経済は、個人消費をみると、大型小売店販売額では消費者の節約・低価格志向が依然として強く、消費活動の水準は低いままであったが、夏の猛暑特需や消費者の節約疲れなどにより、年後半は下げ止まり感がみられるようになった。乗用車新規登録台数ではエコカー補助金制度により前年を上回る動きが続いたが、9月に同制度が終了すると急激に落ち込んだ。

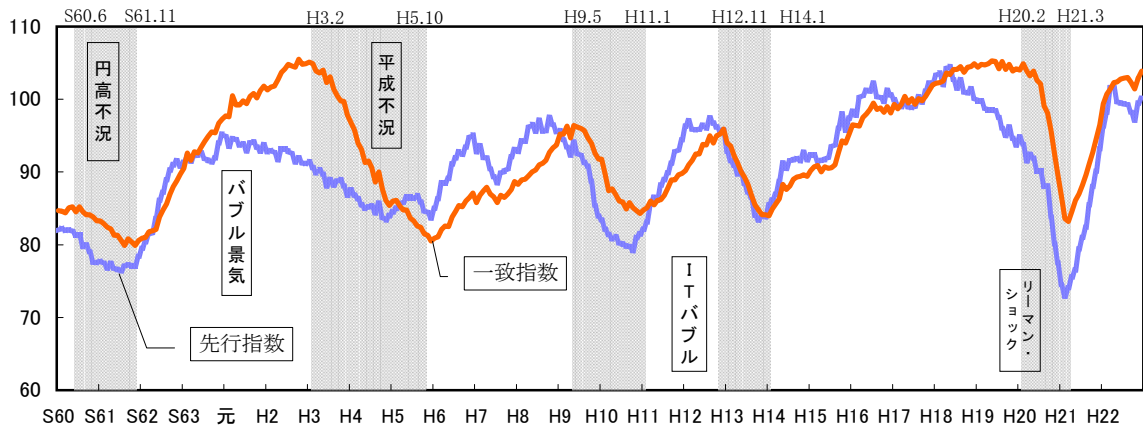
生産活動をみると、年初から前年に引き続く持ち直しの動きが続いたが、年後半になると急速な円高の進行や海外経済の減速などの影響により、回復に向けた動きはゆるやかになった。

雇用・労働環境をみると、生産活動の持ち直しの動きが波及し、有効求人倍率や賃金水準などは、厳しいながらも緩やかに改善していった。

以上のとおり、平成22年の福島県経済は、個人消費は総じて弱い状態が続いたが、生産活動は回復に向けた動きが続き、雇用情勢は低水準ながら改善の動きがみられるなど、厳しいながらも持ち直しの動きが続いた。(図3)

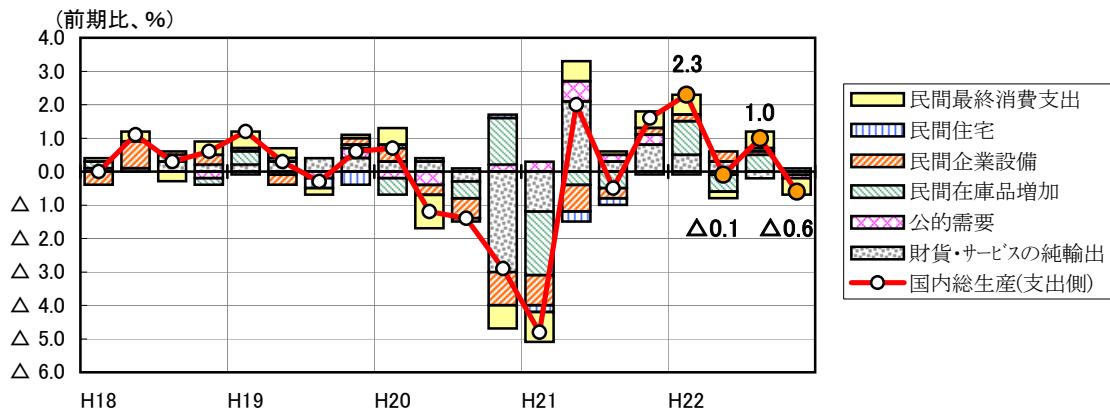
図1 (国)景気動向指数 CIグラフ

(H17=100)



備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」より作成。)
 2 (シャドウの部分は日本経済の景気後退期を示している。)
 3 (各景気の名前は正式なものではなく通称を付したものである。)

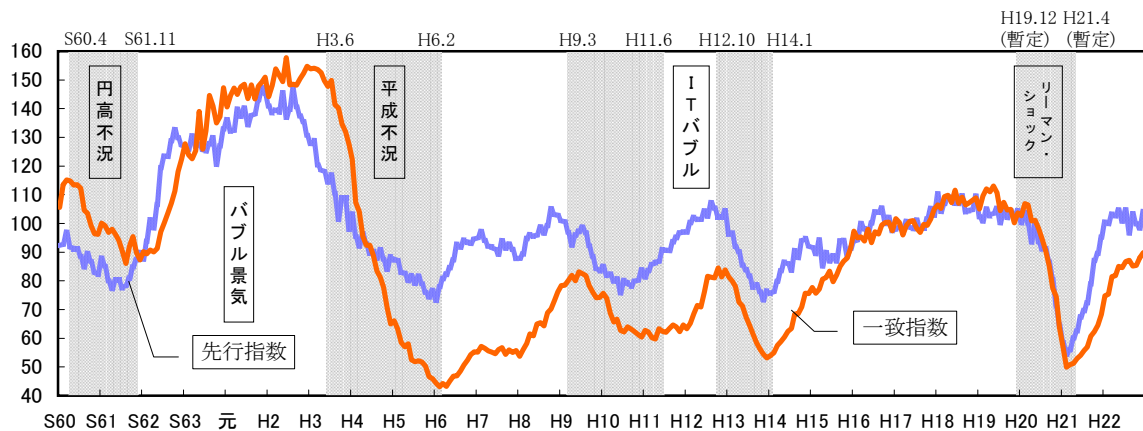
図2 国内総生産(GDP)成長率及び寄与度(実質、季節調整系列)



備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「四半期別GDP速報(国内総生産(支出側)及び各需要項目)」より作成。)
 2 (平成12暦年連鎖価格。)
 3 公的需要は政府最終消費支出、公的固定資本形成、公的在庫品増加の計

図3 (県)景気動向指数 CIグラフ

(H17=100)

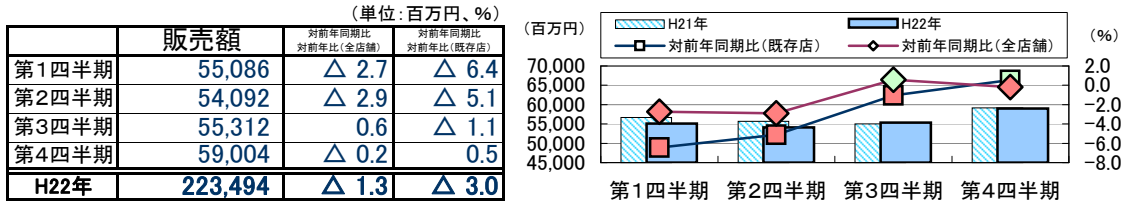


備考 1 (福島県統計分析課「福島県景気動向指数」より作成。)
 2 (シャドウの部分は福島県経済の景気後退期を示している。)
 3 (各景気の名前は正式なものではなく通称を付したものである。)

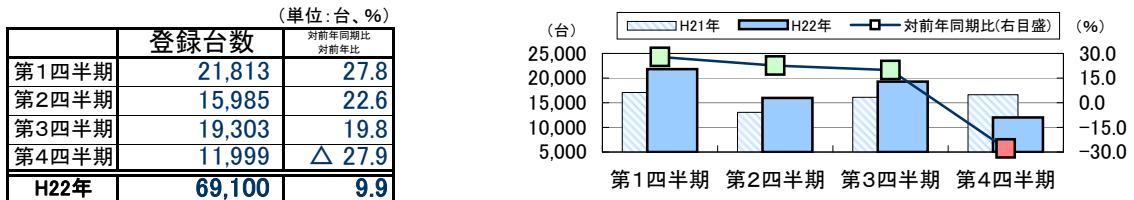
主要経済指標の概要

個人消費 前年からの
変化方向 → 乗用車など一部に明るい動きがみられたが、総じて弱い状態が続いた。

- (1) **大型小売店販売額**は全店舗ベースで総額2,234億9,400万円、対前年比1.3%減となり、2年連続で前年を下回った。 ◆ 詳細は、P11に掲載

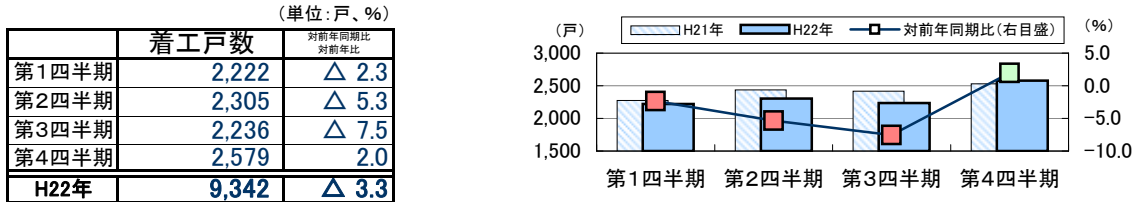


- (2) **乗用車新規登録台数**は69,100台、対前年比9.9%増となり、10年振りに前年を上回った。 ◆ 詳細は、P13に掲載

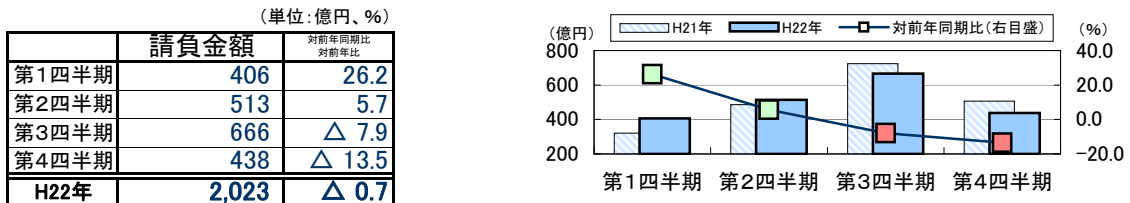


建設需要 前年からの
変化方向 → 民間需要は前年を下回ったが底打ち感もみられた。公共工事は前年を下回った。

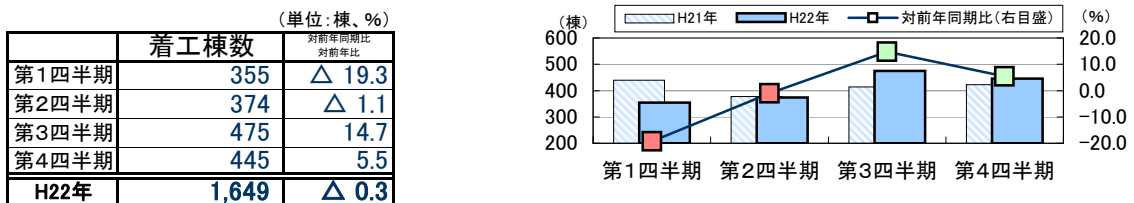
- (1) **新設住宅着工戸数**は9,342戸、対前年比3.3%減となり、2年連続で前年を下回った。 ◆ 詳細は、P15に掲載




- (2) **公共工事請負金額**は2,023億円、対前年比0.7%減となり、3年振りに前年を下回った。 ◆ 詳細は、P17に掲載



- (3) **業務用建築物着工棟数**は1,649棟、対前年比0.3%減となり、5年連続で前年を下回った。 ◆ 詳細は、P19に掲載



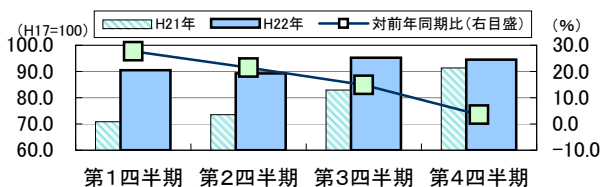
生産活動 前年からの
変化方向  第4四半期にはテンポがゆるやかになったものの、回復に向けた動きが続いた。

(1) **鉱工業生産指数(原指数)**は**92.4**(H17=100)、対前年比**15.9%増**となり、3年振りに前年を上回った。

◆ 詳細は、P21に掲載

(単位:H17=100、%)

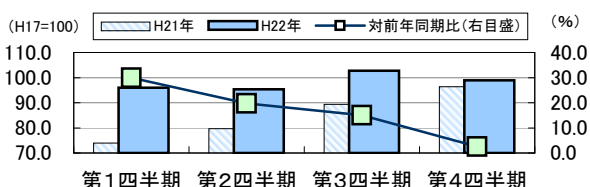
	生産指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	90.5	27.6
第2四半期	89.3	21.5
第3四半期	95.2	14.8
第4四半期	94.5	3.5
H22年	92.4	15.9



鉱工業出荷指数(原指数)は**98.2**(H17=100)、対前年比**15.8%増**となり、3年振りに前年を上回った。

(単位:H17=100、%)

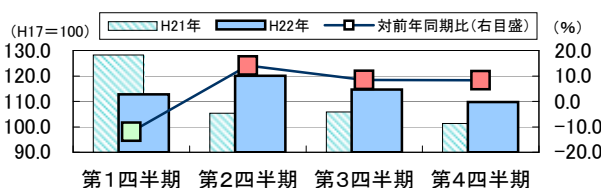
	出荷指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	96.0	29.9
第2四半期	95.4	19.7
第3四半期	102.7	15.0
第4四半期	98.9	2.6
H22年	98.2	15.8



鉱工業在庫指数(原指数)は**114.3**(H17=100)、対前年比**3.8%増**となり、2年振りに前年を上回った。

(単位:H17=100、%)

	在庫指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	112.8	△12.0
第2四半期	120.1	14.1
第3四半期	114.7	8.4
第4四半期	109.7	8.3
H22年	114.3	3.8

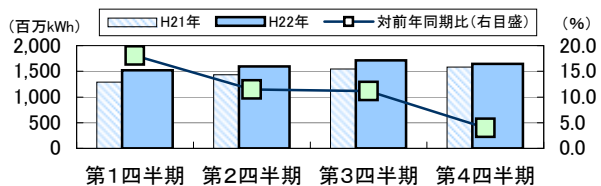


(2) **大口電力使用量は6,478百万kWh**、対前年比**10.8%増**となり、2年振りに前年を上回った。

◆ 詳細は、P25に掲載

(単位:百万kWh、%)

	使用量	対前年同期比 対前年比
第1四半期	1,520	18.1
第2四半期	1,597	11.5
第3四半期	1,715	11.2
第4四半期	1,646	4.0
H22年	6,478	10.8



(四半期値は、月値の平均値)

- 備考 1 指標名の色について、年値が前年と比較して、改善している指標は**緑字**、悪化している指標は**赤字**、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色で表しています。
- 2 グラフのマーカーの色について、四半期値が前年同期(前期)と比較して、改善している指標は**緑色**(■)、悪化している指標は**赤色**(■)、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色(■)で表しています。(「前期」と比較している指標は「求人倍率、パートタイム労働者比率、貸出約定平均金利、日経平均株価、円相場、景気動向指数」)
- 3 第1四半期は「1～3月期」、第2四半期は「4～6月期」、第3四半期は「7～9月期」、第4四半期は「10～12月期」です。

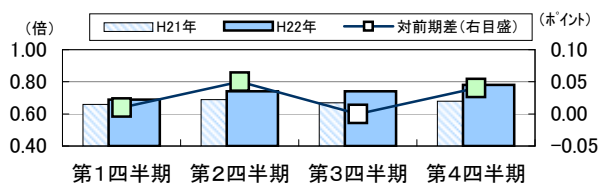
雇用・労働 前年からの
変化方向 雇用・労働環境は厳しいながらも改善の動きが続いた。

- (1) **新規求人倍率(原数値)**は0.74倍、対前年差0.07ポイント上昇し、3年振りに前年を上回った。

◆ 詳細は、P27に掲載

(単位:倍、ポイント)

	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	0.69	0.01
第2四半期	0.74	0.05
第3四半期	0.74	0.00
第4四半期	0.78	0.04
H22年	0.74	0.07

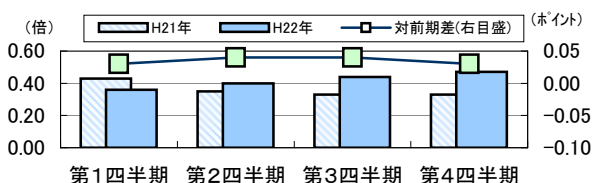


- (2) **有効求人倍率(原数値)**は0.42倍、対前年差0.06ポイント上昇し、4年振りに前年を上回った。

◆ 詳細は、P29に掲載

(単位:倍、ポイント)

	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	0.36	0.03
第2四半期	0.40	0.04
第3四半期	0.44	0.04
第4四半期	0.47	0.03
H22年	0.42	0.06

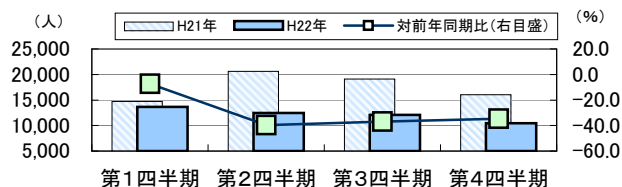


- (3) **雇用保険受給者実人員(基本手当基本分)**は年間平均で1か月当たり12,165人、対前年比31.0%減となり、3年振りに前年を下回った。

◆ 詳細は、P31に掲載

(単位:人、%)

	受給者実人員	対前年同期比 対前年比
第1四半期	13,682	△ 7.2
第2四半期	12,440	△ 39.6
第3四半期	12,068	△ 36.9
第4四半期	10,472	△ 34.7
H22年	12,165	△ 31.0

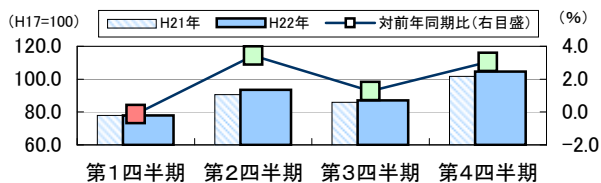


- (4) **現金給与総額指数**は90.8(H17=100)、対前年比2.0%増となり、4年振りに前年を上回った。

◆ 詳細は、P33に掲載

(単位:H17=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	77.9	△ 0.1
第2四半期	93.6	3.4
第3四半期	87.0	1.3
第4四半期	104.7	3.1
H22年	90.8	2.0

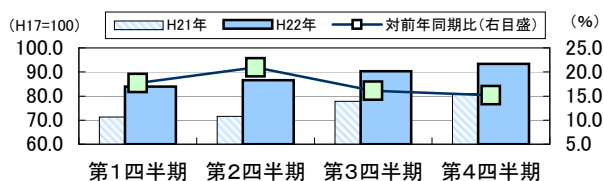


- (5) **所定外労働時間指数**は88.5(H17=100)、対前年比17.4%増となり、3年振りに前年を上回った。

◆ 詳細は、P33に掲載

(単位:H17=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	83.9	17.7
第2四半期	86.6	20.9
第3四半期	90.3	16.1
第4四半期	93.3	15.2
H22年	88.5	17.4

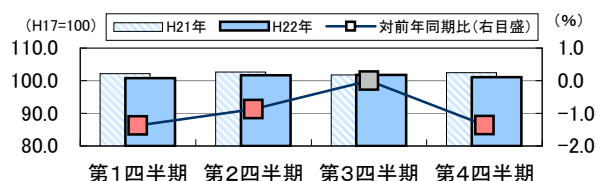


- (6) **常用雇用指数**は101.4(H17=100)、対前年比**0.9%減**となり、**2年連続で前年を下回った**。

◆ 詳細は、P35に掲載

(単位: H17=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	100.8	△ 1.4
第2四半期	101.7	△ 0.9
第3四半期	101.8	0.0
第4四半期	101.1	△ 1.4
H22年	101.4	△ 0.9

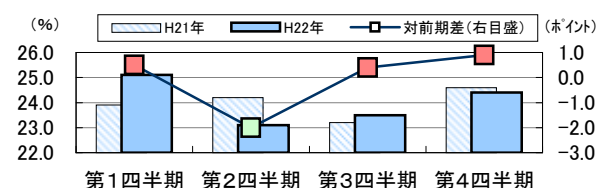


- (7) **パートタイム労働者比率**は**24.0%**、前年と同値となった。

◆ 詳細は、P35に掲載

(単位: %、ポイント)

	労働者比率	対前年同期比 対前年比
第1四半期	25.1	0.5
第2四半期	23.1	△ 2.0
第3四半期	23.5	0.4
第4四半期	24.4	0.9
H22年	24.0	0.0



物 価 前年からの
変化方向 物価はわずかに前年を下回った。

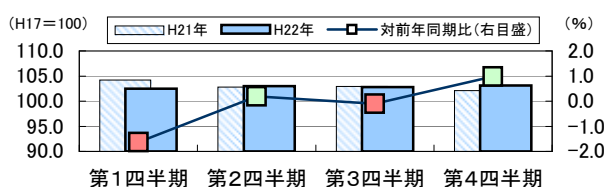


- (1) **国内企業物価指数**は102.9(H17=100)、対前年比**0.1%減**となり、**2年連続で前年を下回った**。

◆ 詳細は、P37に掲載

(単位: H17=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	102.5	△ 1.6
第2四半期	103.0	0.2
第3四半期	102.8	△ 0.1
第4四半期	103.1	1.0
H22年	102.9	△ 0.1

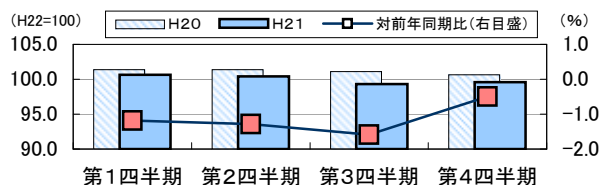


- (2) **福島市消費者物価指数(総合)**は100.0(H22=100)、対前年比**1.1%減**となり、**2年連続で前年を下回った**。

◆ 詳細は、P39に掲載

(単位: H22=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	100.6	△ 1.2
第2四半期	100.4	△ 1.3
第3四半期	99.3	△ 1.6
第4四半期	99.6	△ 0.5
H22年	100.0	△ 1.1



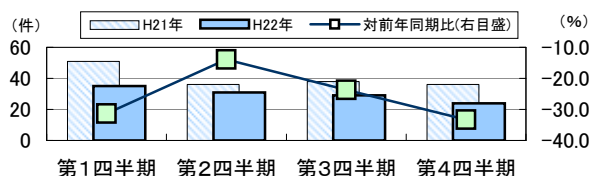
企業関連 前年からの
変化方向 **収益は増加した。企業倒産は前年を下回って推移したものの、大型倒産が多く、負債総額は前年を上回った。**

(1) **企業倒産件数**は119件、対前年比26.1%減となり、2年連続で前年を下回った。

◆ 詳細は、P41に掲載

(単位: 件、%)

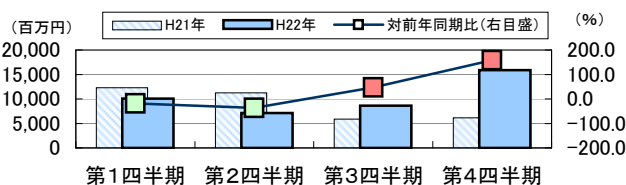
	件数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	35	△ 31.4
第2四半期	31	△ 13.9
第3四半期	29	△ 23.7
第4四半期	24	△ 33.3
H22年	119	△ 26.1



企業倒産負債総額は416億7,500万円、対前年比17.2%増となり、3年振りに前年を上回った。

(単位: 百万円、%)

	負債総額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	10,069	△ 18.0
第2四半期	7,096	△ 37.0
第3四半期	8,601	46.5
第4四半期	15,909	158.6
H22年	41,675	17.2



(2) **全産業の経常損益**(日本銀行福島支店「全国企業短期経済観測調査 福島県分」の調査結果)は対前年度比1.5%増(実績)となり、2年連続で増益となった。

◆ 詳細は、P45に掲載

(単位: %)

	全産業 対前年度比	製造業 対前年度比	非製造業 対前年度比
H22年度	1.5	9.9	△ 2.1

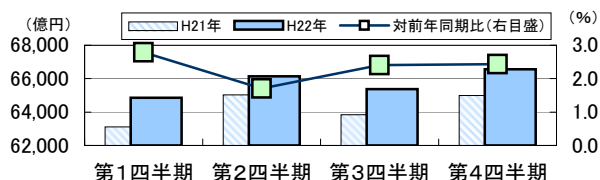
金融 前年からの
変化方向 **預金は前年を上回り、貸出は前年を下回った。金利は低下した。**

(1) **金融機関預金残高**は総額6兆6,569億円、対前年比2.4%増となり、4年連続で前年を上回った。

◆ 詳細は、P47に掲載

(単位: 億円、%)

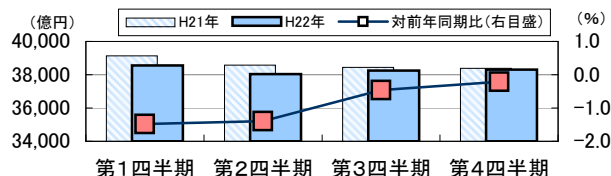
	預金残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	64,864	2.8
第2四半期	66,138	1.7
第3四半期	65,365	2.4
第4四半期	66,569	2.4
H22年	66,569	2.4



金融機関貸出残高は総額3兆8,311億円、対前年比0.2%減となり、2年連続で前年を下回った。

(単位: 億円、%)

	貸出残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	38,562	△ 1.5
第2四半期	38,043	△ 1.4
第3四半期	38,258	△ 0.5
第4四半期	38,311	△ 0.2
H22年	38,311	△ 0.2

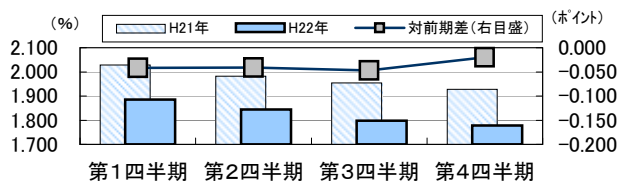


(2) 貸出約定平均金利は地方銀行で1.778%、対前年差0.150ポイント低下となった。

◆ 詳細は、P49に掲載

(単位：%、ポイント)

	金利	対前期差 対前年差
第1四半期	1.886	△ 0.042
第2四半期	1.845	△ 0.041
第3四半期	1.798	△ 0.047
第4四半期	1.778	△ 0.020
H22年	1.778	△ 0.150



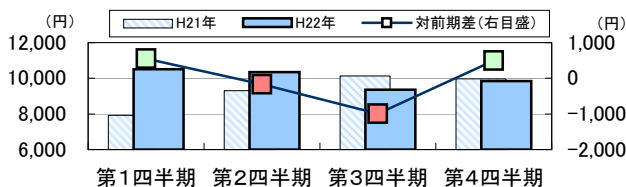
市場 前年からの変化方向 株価は低調に推移した。円相場は円高で推移した。

(1) 東証一部日経平均株価(225種、期中平均値)は10,007円50銭、対前年差668円21銭高となり、3年振りに前年を上回った。

◆ 詳細は、P51に掲載

(単位：円)

	株価	対前期差 対前年差
第1四半期	10,511.18	548.79
第2四半期	10,345.90	△ 165.28
第3四半期	9,356.02	△ 989.88
第4四半期	9,849.09	493.07
H22年	10,007.50	668.21

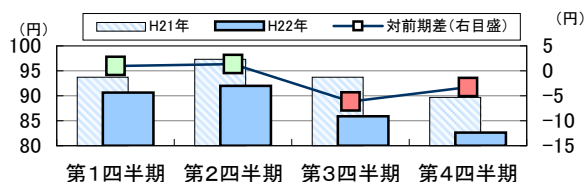


(2) 東京外国為替市場の円相場(対米ドル、期中平均値)は87円74銭、対前年差5円90銭高となり、3年連続で円高となった。

◆ 詳細は、P51に掲載

(単位：円)

	円相場	対前期差 対前年差
第1四半期	90.65	0.95
第2四半期	92.01	1.36
第3四半期	85.87	△ 6.13
第4四半期	82.61	△ 3.26
H22年	87.74	△ 5.90



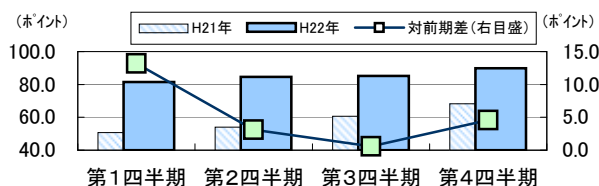
景気動向指数 前年からの変化方向 上昇基調が続いた。

(1) 福島県景気動向指数(CI一致指数)は、上昇基調が続いた。

◆ 詳細は、P53に掲載

(単位：ポイント)

	CI一致指数	対前期差 対前年差
第1四半期	81.5	13.2
第2四半期	84.6	3.1
第3四半期	85.2	0.6
第4四半期	89.8	4.6
H22年	89.8	21.5



(四半期値、年値は期末値)

